

【運用形態】

代表的な利用シーン	災害発生場所	備考
利用場所	屋内(プラント、工場、発電所、地下街)	危険物質の漏洩など人が近づけない場所での情報収集, 偵察活動
利用期間	1日~1カ月	災害抑制まで、災害によって異なる
1日のうちの利用時間	1時間~常時	災害状況によって異なる
使用周波数の変更	可能	あらかじめ設定したバンドを利用するが、同バンド利用不可の場合は変更可

【ホワイトスペース利用システム相互間で共用するための方策】

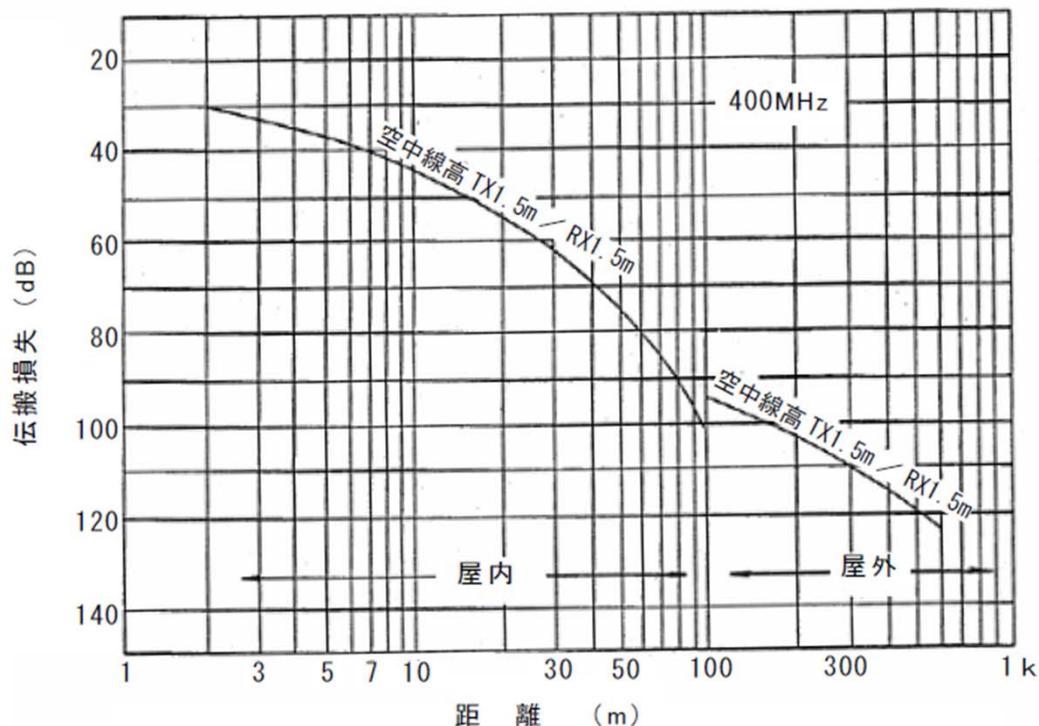
- 災害は突発的に発生するため運用する利用日時・時間帯の事前調整は困難と考える。
- チャンネルの運用調整の手間や、混信等の回避の観点から、例えば、消防署の管轄地域毎にPublic Safetyバンド(2チャンネル程度)をあらかじめ設定し、災害発生において優先的に利用できることが望ましい。(普段は別のシステムが利用し、災害時はその運用を停止。)
- 例えば、データベースによる空きチャンネル検索(住所やGPSによる地点情報に基づく)やキャリアセンスによる最終使用前確認を行う。
- 管轄地域毎のPublic Safetyバンドについては、第三者機関による空きチャネル判定と他の固定的なWSサービスとの事前調整による選定が望ましい。

補足資料-1 屋内の電波伝搬特性の参考例

出典:「ユビキタス機能を応用した高機能自動火災報知設備の開発に関する検討会報告書(平成19年度)」,
平成20年2月 ユビキタス機能を応用した高機能自動火災報知設備の開発に関する検討会
http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/houdou/200411/200410-1houdou_zenbun.pdf

P22 …電波システム開発センターが標準規格 RCRSTD-30 を検討した際に使用した表2.2-2の減衰カーブが小電力セキュリティ無線局の回線設計用として用いられており、このカーブは屋内の減衰量も加味されたものであるため自由空間の減衰より若干大きな減衰量を示す。このことから今回の回線設計において使用する減衰カーブは、簡易的に送受とも1.5m高に設置した表2.2-2に示すデータを使用することとした。

表2.2-2 距離による減衰カーブ
(無線セキュリティシステム開発部会研究報告書(平成2年10月)より)



補足資料-2 使用場所イメージ(火力発電所)

